書記＠：（前回の疑問点）先々代一橋大学長の著書『自分の中に歴史をよむ』において、キリスト教の裁きについての記述があるが、結局、善行悪行で天の国に行くのか？

水口先生：善行悪行については、第二コリント５章を参照。煉獄はカトリック教会で13世紀に生まれた、人間の想像上のもので、こうあればいいなというものである。聖書は1世紀に編纂が終わっている。

1

その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。

2

大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。

3

イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。

4

ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。

5

イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、

6

こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。

7

フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。

8

弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。

MEMO

め：過越の祭りってなんだっけ？

塁：わかりません

Φ：まえのレジュメにあるよ

ｈ：子羊の血を2本の柱と鴨居にぬって災い（子供が死ぬ）を過ぎ越す儀式。

♀：具体的な数字に意味はあるのか？

め：12はキリスト教においても重要な意味を持つとか

＠：使徒が12人だから籠も12個？

♀：自分を王にするためってどゆこと？

♪：人々はイエスに王になってほしい。だけどイエスは不本意

♀：人々って誰？どうして王にしたい？

Φ：リーダーにしたい。キリスト教で王ってのは特別な意味がある。ここでの王は自分たちの上にたつもの。奇跡をおこすような人が上に立てば、自分たちは飢えることがない。

宮：Φ兄に追加。王は福音書でもよく出るけど、ここでは為政者の意味。当時は人々はローマとかに支配されてて辛かった。イエスがよく言う「王」とは違う意味。

め：パンと魚が食えるから王にしたい。イエスを信じてるのではない。単純に飢えているだけ。

ｈ：イエスは預言者？

宮：そう。最後に来る。神様でもある。

F：神の言葉を預けられたもの。

ｈ：自身が神なんじゃね？おかしい。。。。。言葉遊び。

水口先生：ヨハネで言えば。。4章サマリアの女の話。「先生あなたは預言者だと思います。」漢字的には、神の言を預かり、伝える者。だが、単なる預言者ではない。キリストは何と聞かれれば、メシア（救い主）という意味。AかBかではない。では、救世主とは？

ｈ：人々は知恵の実を食べて原罪を背負った。その原罪を背負って人々を救うもの。

Φ：福音を伝えるもの。

水口先生：イエスはなんなのか？というのは重要。一つの問題として聖書を読もう。みなさんのイエスのイメージは？イエスって何者だと思う？

め：聖書を読む前のイエスの印象は、キリスト教の創始者で、たくさんの奇跡をおこした人。聖書を読んでみると、わかったと思ったらなんかわからなくなる。不思議な感じ。

塁：物理法則無視の奇跡を起こす神。だけどよくわからない。。。

F：私は世の光。といった喩が印象的。これからも探っていきたい。

Φ：人々を導くためにいろいろやるひと。そのためにはどうすればよいか考えてる人。

全体像はまだつかめない。

宮：毅然としていて怖い時もあるが、基本的に憐み深い人。他人のことを考えてる。

Φ：パンとかをめっちゃ増やしたのはどゆこと？何を伝えたかったのか？

♀：こういうことが本当に起きたなら、そのディテールを書くべきなのに、なぜ書かないのかな？

♪：あ、奇跡。尽きることなき満ち足りた感、この伏線、暗示。精神的にもこうなるんだよって言いたい。

♀：最初からつくればいいのに。増やすんじゃなくて。

宮：土とか、一番最初はどうなってるの？

ｈ：神様いつ生まれたの？

水口先生：日本のイメージ→神を作る。聖書→神が作る。神は在りて在るもの。I AM WHO I AM！無から作らない理由、これ重要。最初にその素がある。葡萄酒に変わった水しかり、パンと魚しかり。注目すべきは、人間が奇跡に参加していること。わずかなものにも感謝して捧げるとき、力が最大限に発揮される。曽野綾子さんの著書も興味深い。奇跡を起こす際には、人との応答がある。

（Φ兄の質問に戻る）

F：考え中

♀：生活に密着してわかりやすい。比喩的な意味は。。。

め：これは後の伏線か？

ｈ：なんでと言えばきりがない。すごい人なんだよイエスは、と言いたい。他との違いは、奇跡をおこしたらさっさといなくなった点。人々がそんなにイエスを信じなかったからか？

Φ：信仰とかではなく、世俗的な権力のため？（王）

ｈ：奇跡起こす→信じてついていく。今回は違うよ。

水口先生：色んな解釈がある。一つ言えるのは、細部に至りすぎて木を見て森を見ない事態になりかねない。奇跡があれば、見えれば、神を信じる。。。と思えば、信じない人は何見たって信じない。今回、山に退いた後、追っかけてきた弟子に説いた話を読むとわかる。奇跡は、神の力を誇示するためだけでなく、いつも何かほかの意味や理由がある。

９「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢

の人では、何の役にも立たないでしょう。」

10

イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。

11

さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。

12

人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。

13

集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。

14

そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った

15

イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

MEMO

◆湖の上を歩く

16

夕方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。

17

そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。

18

強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。

19

二十五ないし三十スタディオンばかり漕ぎ出したころ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、彼らは恐れた。

20

口語訳を見る

イエスは言われた。「わたしだ。恐れることはない。」

21

そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると間もなく、舟は目指す地に着いた。

め：湖の上を歩くのは何を意味している？

♀：そんな気分のときもあるよ。

め：気にしてほしいのは、イエスが来る前は風が吹いていて来たらやんだってこと。

＠：マタイ14章に詳しい描写があるけど、いきなり止んだわけではないよ。

♪：第一印象は、弟子が怖い時に来てくれる慈悲深い人。

♀：じゃあなんで先に行かせたの？

め：まとめ。「私だ恐れることはない。」、、、と、最初は恐れていたけど、イエスとわかったら安心して、それによって嵐が止んだ。イエスは安心材料？

宮：信じてほしい。疑うと奇跡も揺らぐ。改めて信じよう。と言いたい。

◆イエスは命のパン

22

その翌日、湖の向こう岸に残っていた群衆は、そこには小舟が一そうしかなかったこと、

MEMO

また、イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込まれず、弟子たちだけが出かけたことに気づいた。

23

ところが、ほかの小舟が数そうティベリアスから、主が感謝の祈りを唱えられた後に人々

がパンを食べた場所へ近づいて来た。

24

群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを捜し求めてカファルナウムに来た。

25

そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、「ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか」と言った。

26

イエスは答えて言われた。「はっきり言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。

27

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のため

に働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。」

28

そこで彼らが、「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」と言うと、

MEMO

め：話食い違ってね？

＠：たしかに。25.26節

め：それは答える価値のない質問。27節、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これはどゆこと？

Φ：神の国に入ること。

♀：27節、認証って何？今でいう認証とちがうの？

め：父なる神が、イエスを「俺の息子」と言ったことでは？

29

イエスは答えて言われた。「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」

30

そこで、彼らは言った。「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。

31

わたしたちの先祖は、荒れ野でマンナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」

32

すると、イエスは言われた。「はっきり言っておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。

33

神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」

34

そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と言うと、

35

イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渇くことがない。

36

しかし、前にも言ったように、あなたがたはわたしを見ているのに、信じない。

MEMO

め：35章の話は、4章のサマリア女との問答と同じ。では、何が言いたいのか？

F：信じろ！

め：37節、父が私にお与えになる人ってだれ？

♀：私のもとに来る人

＠：私（＝イエス）を信じる人。

Φ：マンナって何？

水口先生：少し甘いおせんべいのような、不思議な食べ物。おなかがすかないように与えられた、天からのパン。

＠：森永マンナも少し甘いせんべいですね。

水口先生：出エジプト記参照。命のパン＝キリスト

37

父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。

38

わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。

39

わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。

40

わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

MEMO

水口先生：永遠の命のために働け、について先生の友人の話。出版業やめて、牧師になった人と、タイで貧しい人を助けていたが、もっと魂にかかわる仕事（食べ物も大切だけど、魂も潤すような仕事）＝牧師になった人。

この言葉は人の職をかえて